

2020 年度事業報告

目次

1. 事業報告全般	3
1.1. 全般.....	3
1.2. 2020 年度役員および担当.....	4
1.3. 会員異動.....	5
1.4. 総会.....	5
1.5. 理事会.....	6
2. 事業活動	6
2.1. 会誌刊行事業.....	6
2.1.1. 会誌編集委員会.....	6
2.1.2. 会誌経営委員会.....	8
2.2. 普及研修事業.....	10
2.2.1. 研修委員会.....	10
2.2.2. シンポジウム実行委員会.....	11
2.2.3. 試験実施委員会.....	12
2.2.4. 広報活動(広報委員会).....	13
2.2.5. 西日本委員会.....	14
3. その他委員会・プロジェクト活動	14
3.1. 表彰者選考委員会.....	14
3.2. 著作権活動(著作権委員会).....	15
3.3. 標準化活動(標準化委員会).....	15
3.4. 新規事業プロジェクト.....	16
3.5. ホームページ関連.....	16
4. 研究会活動	17
4.1. 日本オンライン情報検索ユーザー会(OUG).....	17
4.1.1. 化学分科会.....	17
4.1.2. ライフサイエンス分科会.....	17
4.1.3. 特許分科会.....	18

4.2. 専門部会 (SIG)	18
4.2.1. 技術ジャーナル部会.....	18
4.2.2. パテントドクメンテーション部会.....	19
4.2.3. 分類／シソーラス／Indexing 部会.....	20
4.2.4. ターミノロジー部会.....	20
4.3. 3i研究会	20
5. 調査・受託事業	21
5.1. ISO/TC37 及び ISO/TC46 国内委員会業務.....	21
5.2. その他の委託業務.....	21
6. 関連団体との連携	22
7. 事務局	22

1. 事業報告全般

1.1. 全般

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、困難な運営を余儀なくされた。財政的には、収入36,942,015円、支出32,898,821円で結果として4,043,194円の黒字となった。昨年度（収入42,330,025円、支出38,043,436円で結果として4,286,589円の黒字）より黒字幅は24万円ほど縮小しているものの、ほぼ同程度の結果となった。収入は昨年度比で約539万円減少している。それでも黒字化できた要因としては、支出を昨年度より514万円削減できたことと、なにより、300万円近い受け取り寄付金（持続化給付金など）の寄与が大きい。各事業や事務局運営において、合理化努力を行ったものの、残念ながら財政的に安定した協会運営が可能な水準には達していない。

会員数については、新型コロナウイルス感染症の拡大による経済停滞の影響で、期末において、正会員が大きく減少し、維持会員、特別会員の機関会員も減少している。このため、会費収入は、維持会員559万円(2019年度)→506万(2020年度)、特別会員280万→272万、正会員889万→765万、準会員5万→2万となり、全体でも1,733万→1,476万(過年度未収分取り崩し69万を含む)と減少している。とくに、正会員の減少が著しい。これは、現下の経済状況の停滞も影響しているものと思われる。今後、正会員の拡充を図るために、さまざまな施策を講じることが必要である。また、維持会員、特別会員についても、引き続き支援していただけるよう対応してゆくことに留意すべきである。

主要な事業別に財務状況を概観する。会誌刊行事業については、会誌販売、広告とも、収入は若干減少した。支出は、微減であった。会誌刊行事業のみで見ると200万円強の赤字であるが、会誌は、全会員に無償配布しているユニバーサルサービスであるので、仮に会費収入の15%を会誌刊行の費用に充当すると、収支均衡する。

普及研修事業においては、コロナの影響で、講習会(セミナー)、シンポジウムは、収入・支出とも半減以下に落ち込んだ。しかしながら、事業実施におけるコスト削減努力により、収支はわずかながら黒字となっている。検索技術者検定は、収入で70万円近く増加したが、CBT化の初期費用を計上した支出が130万円近く増えた。この結果、収支が60万程度の赤字となった。ただし、このCBT化費用は、今後の検定実施の基盤への投資であるため、単年度で評価することは適切ではないと思われる。受託事業は、収入がほぼ半減したものの、費用の圧縮を行って黒字となっている。

事業収支全体で見ると、収入1,850万円、支出2,390万円となり、540万円の支出超過になっているが、これは、525万円の給料手当(人件費)が計上されていることが影響している。いま仮に、管理費896万と人件費525万を合計すると、1,421万円となり、かろうじて会費収入1,476万を下回っている。

このような財政上の問題とそれに伴う予算上の厳しい制約にも拘らず、新型コロナウイルス感染拡大の中で、INFOSTAらしい価値ある事業を推進することができたのは会員各位、特に理事、委員会関係者、その他の皆様の絶大なご尽力によるものと感謝している。

2021年4月以降も、新型コロナ感染症拡大の余波を受けて、イベントの中止、延期、職員の在宅勤務移行などを余儀なくされることが予想され、今後の協会運営には一層の厳しくなる。とくに、財政的には、収支の赤字基調は不可避と思われるが、会員減による減収を、事業による黒字でどれくらい補填できるかと一層のコスト削減が、その程度を決めることになろう。そのため、執行部や各事業担当の中で、定期的あるいは随時に経営状況や事業の推進状況を監視し、対策を協議、実施している。また、ビジョン検討委員会、運営部会などを開催して、より広い視野から INFOSTA の経営と今後につき、検討を開始している。

1.2. 2020 年度役員および担当

2020 年度役員一覧(50 音順)

役職	氏名	担当職務
理事	大塚栄一	会誌(副)、著作権(副)
理事	岡田芳幸	調査(正)、CBT試験(副)、広報(副)、HP担当(副)
理事	小河邦雄	医療情報(正)、試験実施(副)、CBT試験(副)、運営部会
理事	長田孝治	専務理事(事務局長事務取扱委嘱)、運営部会
理事	清田陽司	研修(正)、新規事業(副)
理事	佐藤京子	CBT試験(正)、HP担当(正)、運営部会
理事	清水美都子	副会長、運営部会
理事	棚橋佳子	会誌(正)、シンポジウム(副)、運営部会
理事	原田智子	副会長、運営部会
理事	増田豊	シンポジウム(正)、CBT試験(副)、研修(副)、運営部会
理事	松下茂	広報(正)、著作権(正)、運営部会
理事	松田真美	CBT試験(副)、医療情報(副)、広報(副)
理事	宮澤彰	OUG(正)、標準化(正)
理事	望月聖子	試験実施(正)、CBT試験(副)、運営部会
理事	山崎久道	会長、運営部会
理事	山中とも子	3i研究会(正)、知財担当(正)
理事	吉井隆明	新規事業(正)、会誌(副)
理事	吉野敬子	医療情報(副)、3i研究会(副)、研修(副)

理事	稲葉洋子	西日本(正)、CBT(副)
理事	谷川淳	西日本(正)、研修(副)
理事	中野敦子	西日本(正)、医療情報(副)
理事	中野剛	西日本(正)、知財担当(副)
監事	小田島互	
監事	角田裕之	

1.3. 会員異動

種別	2019年度末	入会	退会	増減	2020年度末
維持会員	47	0	7	-7	40
特別会員	65	0	3	-3	62
正会員	757	20	66	-46	711
準会員	5	1	2	-1	4
合計	874				817

1.4. 総会

第63回定時社員総会は、2020年6月17日に開催された。

議題

1. 2019年度事業報告および決算報告(審議)
2. 2020年度事業計画および予算(報告)
3. 2020～2021年度役員選挙(審議)
選挙管理委員立会いのもと開票が行われ委員長より結果報告があり承認された。
4. 第45回情報科学技術協会表彰
 - 1) 情報業務功労賞 屋ヶ田 和彦氏(住ベリサーチ(株))
 - 2) 教育・訓練功労賞 藤井 信栄氏((株)EPファーマライン)
 - 3) 研究発表賞 佐藤翔氏(同志社大学)、池内有為氏(文教大学)、林豊氏(九州大学、現国立情報学研究所)、尾城孝一氏(国立情報学研究所)
対象論文 「『情報の科学と技術』の連載 「オープンサイエンスのいま」(「情報の科学と技術. 2018, vol.68 no.4」から「情報の科学と技術. 2020, vol.70 no.3」に掲載)
- 4) 優秀機関賞 該当なし
- 5) 協会事業功労賞 板橋慶造氏(元日本原子力研究開発機構)、須藤健次郎氏((株)発明通信社)
5. 名誉会員推挙 該当者なし

- 6. 永年会員推挙 高橋晴子氏(国立民族学博物館)、
辻川剛由氏(元日本ゼオン(株)、元(株)情報管理研究社)
- 7. その他

1.5. 理事会

2020年度理事会は、4回開催された。

第1回 2020-07-08

役員選出、理事担務検討ほか

第2回 2020-10-28

ウィズコロナ,ポストコロナの時代における INFOSTA のあり方と方向性について
J-STAGE 会誌記事の複製提供、インフォプロ 2021 開催についてほか

第3回 2021-03-10

2021年度事業計画・予算案検討、CBT 試験実施に伴う契約ほか

第4回 2021-05-19

2020年度決算報告、事業報告ほか

2. 事業活動

2.1. 会誌刊行事業

2.1.1. 会誌編集委員会

2020年度も安定した刊行(毎月1日発行)を達成することができている。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、今年度もインフォプロの関心領域から様々な話題のトピックを取り上げることができた。特集テーマの検討に際しては、当協会の事業と関連する「インフォプロのためのプログラミング事例集」(4月号)や「DX時代の情報管理と法情報リテラシー」(11月号)を特集する一方で、やや発展的なテーマとして「ウェブを基盤とした社会」(6月号)や「RDFとSPARQL～検索とデータ可視化」(8月号)などの特集を取り扱いつつ、「災害に備える」(9月号)、「カスタマーハラスメントと情報」(10月号)、「環境問題と情報」(2月号)、「色彩による情報提供」(3月号)など、情報を切り口にした多様な特集の構成を取ることができたと言える。

例年どおり、他の委員会と連携した企画を実施した。パテントドキュメンテーション委員会からは「AI時代のインフォプロ」(7月号)の企画検討、編集において全面的な協力を頂き、特集号を発行することができた。シンポジウム実行委員会からは「第17回情報プロフェッショナルシンポジウム」(12月号)特集号の発行に全面的な協力を頂いたほか、同シンポジウムの口頭発表者への投稿呼びかけを行って頂いた。昨年度より試行している研修委員会とのタイアップも継続しており、研修委員会が開催するセミナーの講演録執筆、掲載の呼びかけを行って頂いた。その他、SIG部会の活動報告執筆の呼びかけなども継続的に行っており、記事読者に有益な情報を届けるためにも、これらの連携企画については継続して実施したいと考えている。

【特集】

年	号	特集タイトル
2020	4月号	インフォプロのためのプログラミング事例集
2020	5月号	個人情報とサイバーセキュリティ
2020	6月号	ウェブを基盤とした社会
2020	7月号	AI時代のインフォプロ
2020	8月号	RDFとSPARQL～検索とデータ可視化
2020	9月号	災害に備える
2020	10月号	カスタマーハラスメントと情報
2020	11月号	DX時代の情報管理と法情報リテラシー
2020	12月号	第17回情報プロフェッショナルシンポジウム
2021	1月号	教育現場における電子書籍の活用
2021	2月号	環境問題と情報
2021	3月号	色彩による情報提供

【連載・コラム】

2019年度に引き続き、連載「情報を計測し、法則化する～今に活かせる計量情報学の経験則」を実施した。また、新たな連載「情報科学技術に関する識別子」が5月号より開始した。

- ・ 情報を計測し、法則化する～今に活かせる計量情報学の経験則 (2019年11月～2020年9月)
- ・ 情報科学技術に関する識別子 (2020年5月～継続連載中)
- ・ INFOSTA Forum (不定期連載中)

特集原稿及び連載以外の記事としては、会員からの投稿記事を17本、書評を13本掲載した。投稿記事数は堅調に推移しているほか、書評数が昨年の2倍弱となっている。

【委員会・会議開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2020-04-08	定例委員会	Web会議
2	2020-05-13	定例委員会	Web会議
3	2020-06-03	定例委員会	Web会議
4	2020-07-04	定例委員会・企画会議	連合会館
5	2020-08-05	定例委員会	Web会議
6	2020-09-02	定例委員会	Web会議
7	2020-10-07	定例委員会	Web会議
8	2020-11-04	定例委員会	Web会議
9	2020-12-05	定例委員会・企画会議	文京シビックセンター
10	2021-01-13	定例委員会	Web会議
11	2021-02-03	定例委員会	Web会議
12	2021-03-03	定例委員会	Web会議

【委員会の体制等】

会誌編集委員会では会誌編集協力員(2021年3月現在5名)を置いており、特集企画、連載企画への参画のほか、電子メール、企画会議への参加等を通じてコメントをいただき、実務視点に捉われない多角的な情報の把握に努めている。編集作業の効率化の観点から、昨年度に引き続きオンラインのチャットツール活用、マニュアルの整備を行っている。昨年に引き続き、定例の委員会については全てWeb会議システムを通じて実施し、企画会議を含む7月・12月は対面及びWeb会議システムのハイブリッド形式で委員会を実施した。

その他、会誌経営委員会には2名の委員が参画し、多様な視点から会誌の在り方等について検討を進めるとともに、投稿の手引き改訂、J-STAGE上でのお勧め記事掲載及びアクセス解析といった面で緊密な連携のもと具体的な活動を行っている。

2.1.2 会誌経営委員会

会誌経営委員会は、会誌編集委員会、事務局と連携して、会誌に関わる諸業務の健全な運営のための施策、記事構成に関する方針、読者増加に向けての施策などの策定と実施の監督を行うことを任務とする。2020年度は、事業計画に基づいて以下の活動を行った。

(1) 関係する他の委員会との役割分担の明確化と連携の推進

近年、連載記事等一部の記事の企画・校閲を実質的に本委員会が担当していたが、近接の号の特集と連載の記事の主題が重なり合うことがあり得るので、特集記事、連載記事、及びその他企画記事の企画・編集業務を会誌編集委員会に一本化した。但し、本委員会で連載記事等の提案をすることは今後も継続し、その場合、提案した委員が会誌編集委員会に編集協力員として参画する。一方、これまで会誌編集委員会の任務であった会誌投稿規定・執筆要領の策定は、会誌の運営に関わる業務として本委員会が所掌することとした。

以上に関して、両委員会の運営内規を修正し、2020年10月の理事会で承認を得て、以降これに従って活動を行った。

(2) 会誌記事に関する検討と企画

昨年度から継続中の連載「情報を計測し、法則化する～今に活かせる計量情報学の経験則」は2020年9月号をもって終了した。連載「情報科学技術に関する識別子」を2020年5月号から開始し、来年度も継続する。新たに特許関連の連載の提案があり、記事企画・編集業務の会誌編集委員会への一本化（(1)を参照）により、提案の委員が会誌編集委員会の編集協力員として参画している。

適当な論文発表媒体を持たない非会員を想定して、非会員にも会誌への論文投稿を認めることについて検討した。そのためには、査読方針の明確化と査読体制の強化が必要であり、これについても検討した。これらの検討は次年度継続する。

(3) 会誌記事の公開に関する検討

J-STAGEの会誌公開では、会員の利用優先性を維持するため、主に特集記事、連載記事を対象にエンバーゴ期間を設定しているが、非会員への広報手段として以下につき検討・実施した。

① オープンアクセスポリシーの公開

著者による会誌掲載記事の機関リポジトリ等での公開（いわゆるグリーンOA）に対するガイドラインを定め、2020年9月に「情報の科学と技術」オープンアクセスポリシーを公開するとともに、「原稿執筆の手引き」を改訂した。これにより、出典を明示するための事項、公開する場所、公開する記事の版、エンバーゴ記事の公開時期を定めた。

② 記事へのクリエイティブ・コモンズ(CC)ライセンスの付与

記事に対する権利関係を明確にすることにより記事の二次利用を促進させるために、会誌記事にCCライセンスを付与し、2021年4月号の記事から適用することとした（著者がCCライセンスを選択しないことも可）。ライセンスが付与された記事は、J-STAGEの詳細検索機能によって個別の検索が可能になり、利用者の利便性向上に資する。

③ J-STAGE 会誌記事の複製提供（PPV サービス）の実施

非会員読者がエンバーゴ期間中の記事を早期に購読することを可能とするため、PPVによる提供を検討し、2020年10月の理事会で承認を得た。記事の送付、料金の回収はサンメディア社のサービスを利用し、2021年4月1日より、1記事あたり500円の提供料（INFOSTA 徴収300円、サンメディア社徴収200円）サービスを開始する。

(4) 会誌の中長期的な位置づけの検討

非会員や他団体の本協会活動に関する潜在ニーズ、INFOSTAの他の委員会との連携活動等について検討したが、成案には至らなかった。

(5) その他

- ① 会誌に関するプライバシーポリシーと倫理規程について提案があり、次年度に検討を継続する。
- ② 会誌広告の増収策について検討し、維持会員への求人広告の勧誘が実施された。
- ③ 協会ホームページの会誌ページレイアウトの修正について提案があり、次年度に検討を継続する。この他に、協会及びJ-STAGEの会誌ページの更新を適宜行った。
- ④ 会誌総目次の記事区分を整理し、2020年12月号の総目次に適用した。
- ⑤ 会誌編集委員会との協議により、新型コロナウイルス感染症対応支援として2020年5月号から9月号の特集記事・連載記事を臨時にフリー公開とした。
- ⑥ 会員にINFOSTA活動を知らしめるためにSIG担当理事を通し、1件の執筆をSIG部会に依頼し、次年度出版の予定。
- ⑦ 実践女子大図書館からの依頼で、「ドキュメンテーション研究総目次」が「図書館情報学文献目録Biblis PLUS」に公開されることを許諾する手続きを進め、公開されるに至った。

【委員会開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2020-07-13	本委員会の役割・位置づけ、CCライセンス付与、総目次における記事区分、PPV サービス	Web 会議 (Zoom)

2	2020-12-07	本委員会の役割・位置づけ、CCライセンス付与、会誌の経営状態改善、プライバシーポリシー・倫理規程、連載記事提案	Web 会議 (Zoom)
3	2021-02-18	会誌の経営状態改善、非会員の論文投稿の認容、広告収入増大策	Web 会議 (Zoom)

2.2 普及研修事業

2.2.1. 研修委員会

【概要】

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、緊急事態宣言発出などの影響を大きく受け、前半は計画していたセミナーが開催できない状況が続いたものの、後半からはオンライン会議システム活用の経験を徐々に蓄積し、2020年12月の著作権セミナーでは、初めて有料のオンラインセミナーとして開催することができた。一部セミナーについてはハイブリッド開催とするとともに、感染防止対策のルール整備を行った。

また、INFOSTAの各委員会との連携強化にも努めた。2020年12月の著作権セミナーは、著作権法改正に向けたパブリックコメントの募集とタイミングを合わせ、著作権委員会との連携により企画化した。集客の増加やINFOSTAの認知拡大を目的として、ソーシャルメディアを活用したタイムリーな情報発信を充実するため、広報委員会と連携したソーシャルメディアの機動的な運用を試み、一定の成果を得た。

来年度もコロナ禍の影響が継続する見込みであること、地方在住の会員層にとってもメリットが大きいことから、引き続きオンライン会議システムを活用して各種セミナーを充実していく予定である。

【委員会開催状況】

以下の日程で開催した。

第1回 2020年4月14日、第2回 2020年6月17日、第3回 2020年8月24日
第4回 2020年10月30日、第5回 2020年12月2日、第6回 2021年2月17日（いずれもオンライン開催）

【活動状況】

- 2020.10.23 『基礎から学ぶ！情報収集・活用術：検索「超」入門 2020』
講師：原田 智子 氏（鶴見大学名誉教授） 会場：日本図書館協会
参加者：9名（うち2名はオンライン参加） ※大阪会場での開催は中止
- 2020.12.15 『著作権法改正の動向について：INFOSTAとしてできること！』
講師：村井 麻衣子 氏（筑波大学准教授） 会場：Zoom ウェビナーによる
オンライン開催 参加者：46名
- 2021.1.22 『「オープンサイエンスのいま」の、いまとこれから』
講師：佐藤 翔 氏（同志社大学准教授） 会場：Zoom ミーティングによる
オンライン開催 参加者：18名

2.2.2. シンポジウム実行委員会

(1) 委員会開催状況（第4回以降 Zoom 開催）

▼ INFOPRO2020 実行委員会

- 第1回 2019年11月25日(18:30-21:00 / JST 東京本部別館)
- 第2回 2019年12月19日(18:30-21:00 / JST 東京本部別館)
- 第3回 2020年2月19日(18:30-21:00 / JST 東京本部別館)
- 第4回 2020年4月13日(18:30-21:00)
- 第5回 2020年5月14日(18:30-21:00)
- 第6回 2020年5月21日(18:30-21:20)
- 第7回 2020年6月18日(18:30-21:30)
- 第8回 2020年7月1日(18:30-21:00)
- INFOPRO2020Plus 座談会 2020年7月7日(18:30-21:30)

▼ INFOPRO2021 実行委員会（全て Zoom 開催）

- 第1回 2020年11月24日(19:00-21:10)
- 第2回 2020年12月17日(19:00-21:30)
- 第3回 2021年1月12日(19:00-20:50)
- 第4回 2021年2月4日(19:00-20:30)
- 第5回 2021年3月1日(19:00-20:45)
- 第6回 2021年4月5日(19:00-20:55)
- 第7回 2021年5月6日(19:00-21:25)

(2) 活動状況

第17回情報プロフェッショナルシンポジウム（INFOPRO2020）は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ、誌上開催として予稿集の発行をもって成立させた。また、2020年7月2、3日の午後に、口頭発表の希望者およびポスター発表者を中心とした INFOPRO2020Plus をオンライン開催し、最大 338 名の参加者（視聴者）を得た。なお、予稿集には詳細が掲載されなかったポスター発表はこのオンライン発表をもって成立させ、スポンサーによるプロダクト・レビューも開催した。Plus は初めてのオンライン開催となり試行的な側面もあったことから無料イベントとしたが、多くの会員外の参加を得ることができ、協会の活動を広くアピールする場になった。

●特別講演

ドキュメント：『ファクトフルネス』大ヒットの舞台裏

● OUG ライフサイエンス分科会公開講座

テーマ：The「医学文献データベース」 その中身と違いを検証する（国内編）
その2

- 3i 研究会第7期発表（5件、うち3件はオンラインでも発表）
- 口頭発表（8件、うち7件はオンラインでも発表）
- 電子ポスター発表（3件）

●プロダクト・レビュー（6 機関）

来年度は、当初より有料のオンラインイベントとする方針を決め、7月1、2日の2日間に終日のプログラムで開催する予定である。運営には学術大会向けプラットフォームを導入し、第17回シンポジウムで得られた経験を生かしつつ、新たな取り組みを続けていきたい。

2.2.3. 試験実施委員会

新型コロナウイルス感染拡大防止措置として、各委員会はいずれも zoom によるオンライン開催となった。

①委員会開催状況と主な議題：

- ・ 191 回（2020-04-16）分科会人選検討、公開解答例進捗、CBT 導入分科会関連
- ・ 192 回（2020-06-18）受験案内検討、CBT 試験対応、分科会対応
- ・ 193 回（2021-01-12）1 級一次合否判定、1 級二次面接関連討議
- ・ 194 回（2021-01-26）2 級合否判定、合格を祝う会について、HP 掲載内容
- ・ 195 回（2021-02-16）1 級二次合否判定、3 級対応
- ・ 196 回（2021-03-16）2021 年度試験実施について、委員増強について

②活動状況

・新型コロナウイルス感染症対策：

突如降ってわいた新型コロナウイルス感染防止対応として、試験実施方法等の検討を行った。1、2 級は、感染防止対策（検温、座席の密回避等）を行ったうえで例年通り実施できたが、当日欠席者は例年より微増した。3 級は各 CBT 試験会場の対応下で実施された。

また、1 級二次試験は、Zoom によるオンライン面接で実施された。

・3 級試験の CBT 方式による実施：

今年度から 3 級は CBT 方式に変更して実施された。申込期間 2020 年 10 月 1 日～2021 年 1 月 29 日、試験期間 2020 年 11 月 1 日～2021 年 1 月 31 日で実施、受験者総数 372 であった。

・実施委員会メンバー：

分科会含めメンバー増強が喫緊の課題であり、候補者抽出・打診等行っているが、増強できずにいる。

・委員会以外の活動：

合格者を祝う会は、3 月 13 日（土）に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoom を利用したオンライン開催で実施した。対象は、2019 年度及び 2020 年度合格者で東西合わせて 22 名の合格者が参加した。

CBT 導入分科会

①委員会開催状況と主な議題

- ・ 5 回（2020-04-07）試験運営に関する諸事項検討、広報関連
- ・ 6 回（2020-06-02）CBT 試験体験版、広報関連、シンポジウムの件、進捗確認
- ・ 7 回（2020-07-22）進捗確認、広報関連、スケジュール確認

- ・ 8回（2020-09-04）進捗確認、広報関連、図書館総合展の件、スケジュール確認
- ・ 9回（2020-10-23）進捗確認、図書館総合展の件、スケジュール確認
- ・ 10回（2020-12-03）進捗確認、申込・実施状況等中間分析、2021年度に向けて
- ・ 11回（2021-02-09）2020年度実施状況、2021年度計画、スケジュール確認

②活動状況

・ 広報関連：

3級のCBT方式導入にあたり、会誌やHPでの宣伝、SNSを活用した広報活動を実施した。具体的には以下を行った。

- ・ CBT方式の「体験版」作成
- ・ YouTubeに動画掲載（受験申込方法、勉強の仕方、体験版紹介、受験申込方法など）
- ・ ホームページの更新
- ・ 3級のみのでA4チラシ作成
- ・ 外部関連サイトへの通知（「日本の資格・検定」、「資格の王道」、Wikipedia他）

更に、広報委員会の協力のもと頻繁なツイート、Facebookなどによる広報も行なわれた。また、宣伝活用に先立ち、「検索技術者検定」の略称「検索検定」を使用すること、そのロゴの作成及びロゴ商標登録申請を行なった。

検索技術者検定の文部科学省後援申請については、必要な資料を作成して申請したが、身障者特別措置の規定整備が未実施であることなどが課題とされ2020年度の採用は見送られた。

図書館総合展では、上記のウェブ上の素材を総合的に使用したポスターを作成し、オンライン掲載（2020年11月から2021年掲載終了まで）でのポスター発表を行った。

2.2.4. 広報活動（広報委員会）

① 委員会開催状況と主な議題

- ・ 2020年度第1回委員会 4月20日（水）17:30～19:00
- ・ 2020年度第2回委員会 7月28日（火）18:15～20:45
- ・ 2020年度第3回委員会 9月16日（火）18:30～20:30
- ・ 2020年度第4回委員会 11月26日（火）18:30～20:30
- ・ 2020年度第5回委員会 1月26日（火）17:30～19:40
- ・ 2020年度第6回委員会 3月23日（火）17:30～19:30

② 活動状況

- ・ ホームページプロジェクトへの委員派遣とHPトップページの変更案を作成。
- ・ HPトップページ改訂案について西日本委員会と意見交換を行う。
- ・ ホームページプロジェクトと共同でHPへのロゴ掲載案内を行う。
- ・ ホームページへの2020年度ロゴ掲載案内を作成し事務局を通じて維持会員、特

別会員に送付。

- ・ホームページへの 2021 年度ロゴ掲載料金を検討し案内を作成。事務局を通じて維持会員、特別会員に送付。
- ・広報関連資材の修正（A4リーフレット）を行う。
- ・2020 年度開催の INFOPRO シンポジウム実行委員会（Web 開催）に委員を派遣する。INFOPRO の案内広報を Twitter などで行う。
- ・図書館総合展への INFOSTA パネル出展の案内広報を Twitter などで行う。
- ・CBT 導入分科会と協力して 3 級試験リーフレットを作成する。
- ・CBT/検索技術者検定の案内広報を Twitter などで行う。
- ・著作権委員会主催セミナーの案内広報を Twitter などで行う。
- ・第 106 回全国図書館大会和歌山大会に際して、大会記録協賛広告を掲載。
- ・その他 Twitter による INFOSTA 各行事の広報を適宜発信する。
フォロワーは 385 となる（2021 年 4 月 7 日現在、参考：2020 年 3 月 360）

2.2.5. 西日本委員会

①委員会開催状況

- 2020-05-15：第 201 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）
- 2020-08-13：第 202 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）
- 2020-09-15：第 203 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）
- 2020-11-20：第 204 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）
- 2021-01-26：第 205 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）
- 2021-03-09：第 206 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）

②活動状況（理事会に報告すべき事項）

2020-09-19, 20：サーチャーター講座 21（東京会場）

2021-02-12：「人と情報をつなぐ西日本インフォプロ交流会」（旧じょいんと懇話会）をオンライン開催

※サーチャーター講座 21（大阪会場）は新型コロナウイルスの影響により中止（大阪会場の申込者は東京会場の講座を Web 受講）

※例年行われている見学会は新型コロナウイルスの影響で開催を延期。

※例年行われている検索技術者検定「合格を祝う会」は新型コロナウイルスの影響で東西合同のオンライン開催となる。

3. その他委員会・プロジェクト活動

3.1. 表彰者選考委員会

2021 年 3 月 22 日および 4 月 8 日に第 46 回（2021 年）表彰者選考委員会を開催した。以下の各賞が理事会で承認された。

○情報業務功労賞

北島 由紀子氏（大正製薬株式会社）

○教育・訓練功労賞

都築 泉氏（HIT サービス研究所）

○研究発表賞

松田 真美氏 (特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会)

黒沢 俊典氏 (特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会)

林 和弘氏 (文部科学省 科学技術・学術政策研究所)

対象論文: MEDLINE 収録国内医学雑誌の経年分析: 採録数の減少と電子データの重要性. 情報の科学と技術. 2020. 第70巻, 第1号, p. 41~46.

○優秀機関賞

日仏図書館情報学会

○協会事業功労賞

廣谷 映子氏 (旭化成ファーマ株式会社)

○名誉会員

川島 順氏 (はやぶさ国際特許事務所)

○永年会員

井上 孝氏 (井上翻訳オフィス)

時実 象一氏 (学術情報 XML 推進協議会)

3.2. 著作権活動 (著作権委員会)

① 委員会開催状況

- ・ 2020年度第1回委員会 9月2日 (水) 20:00~21:30 オンライン開催
- ・ 2020年度第2回委員会 9月23日 (水) 19:00~21:00 オンライン開催
- ・ 2020年度第3回委員会 11月17日 (火) 18:00~19:00 オンライン開催
- ・ 2020年度第4回委員会 12月10日 (木) 13:30~14:30 オンライン開催
- ・ 2020年度第5回委員会 12月15日 (火) 13:00~17:15 オンライン開催
- ・ 2020年度第6回委員会 12月16日 (水) 16:00~16:30 オンライン開催

② 活動状況 (理事会に報告すべき事項)

- ・ 研修委員会と協力して著作権法改正の動きについて概括するセミナーを開催。INFOSTA 初の有料オンライン開催。
- ・ セミナーをもとに著作権法改正に関して INFOSTA の立場からパブリックコメントを作成して文化庁に提出。

3.3. 標準化活動(標準化委員会)

① 委員会開催: 1回 (2020年6月23日 (Zoom))

② 活動状況

- (1) a) 国際標準化 ISO/TC37 および TC46 の国内審議団体引き受け,
b) JIS 策定, 見直しへの協力,
c) 協会独自の標準化活動を柱とする。
- (2) ISO/TC37, ISO/TC46 の国内審議団体の事務局としての活動をサポートした。
TC37 での投票回数 56 回, TC46 での投票回数 68 回。
- (3) TC46 分野において新規国際標準開発の提案を経済産業省に対し行った。
結果は不採択であった。
- (4) 昨年度原案作成を行った JIS X 0304 国名コード, JIS X0307 国際十進分類法 (UDC) の最終調整を行い, 2021年3月に発行となった。
- (5) JIS 17100 翻訳サービス-翻訳サービスの要求事項の原案作成を行い, 2021

年3月に発行となった。

3.4. 新規事業プロジェクト

イ. 新企画の「知的財産管理技能検定三級対策セミナー」は、コロナ禍及び参加者を満たすことができず一度の実施もできなかった。

2020年5月30日：

第三回知的財産管理技能検定三級対策セミナー実施（コロナ禍で延期）

2020年9月26日：

第三回知的財産管理技能検定三級対策セミナー実施（定員満たさず延期）

2021年1月17日：

第三回知的財産管理技能検定三級対策セミナー実施（定員満たさず延期）

ロ. 会議

- ・ 三役及び担当理事と進め方の方向性について意見交換を行った（2020年7月29日）。
- ・ 担当理事と具体的な方向性について、情報交換を行った（2020年11月12日）。

ハ. 活動

- ・ 信頼情報に関する糸口がないかを模索し、武蔵野大学生涯学習講座「信頼できる情報の見分け方—新型コロナウイルス感染症を事例として—」をオンライン受講するが、内容的に空振りとなる（2020年12月）。
- ・ 昨年度コロナ禍により実施できず、今年度も現地開催が困難と見込まれた検索検定の「合格者を祝う会」について、協会の新規事業の一環と位置づけ、初めての試みとしてオンラインでの開催を行った。オンライン開催の長所を生かし、地域を超えた交流の機会とするため、先輩サーチャーにも多数参加いただくとともに、ブレイクアウトルームの機能を活用し、多くの方々と懇談いただける環境の創出に努めた。約30名の参加を得て活発な交流が行われるとともに、合格者の方々へのINFOSTAの活動のアピールなどにも努めた（2021年3月13日）。
- ・ インフォプロとしての新たなキャリアパスを提示する新たなセミナー実施の検討を行い、研修委員会と連携して企画化した。来年度2021年5月10日に開催予定

3.5. ホームページ関連

協会のホームページ (<https://www.infosta.or.jp>) の更新、管理は「ホームページ運用内規」に基づき、ホームページ更新責任者、更新担当者により順調に行われた。

HP担当理事は広報委員会と共にトップページの改修（バナー広告掲載開始、ナビゲーションバー整理など）、「HP更新マニュアル」の更新（レスポンシブカラムレイアウト追加など）などを行なった。また、検索検定C B Tに関連したS N S 発信、動画作成なども行なった。

更に、研修委員会によるS N S 情報発信のパイロット試験にも協力した。なお、コロナ禍の中SNSでの広報活動を活発化するために、休止していたFacebookの利用も再開した。

4. 研究会活動

4.1. 日本オンライン情報検索ユーザー会(OUG)

4.1.1. 化学分科会

休会中

4.1.2. ライフサイエンス分科会

(主査：廣谷映子氏、8回開催)

2020年5月度(第375回) ライフサイエンス分科会

開催日時：2020年5月21日(木) 14:00～15:30

開催場所：ZOOM

参加人数：12名

内容：INFOPRO2020 準備会議

2020年6月度(第376回) ライフサイエンス分科会

開催日時：2020年6月18日(木) 14:00～16:30

開催場所：ZOOM

参加人数：15名

内容：INFOPRO2020 準備会議

2020年7月度(第377回) ライフサイエンス分科会

開催日時：2020年7月3日(金) 13:00～14:00

開催場所：ZOOM

参加人数：約140名

内容：INFOPRO2020Plus OUG ライフサイエンス分科会公開講座

The「医学文献データベース」その中身と違いを検証する(国内編) その2

2020年9月度(第378回) ライフサイエンス分科会

開催日時：2020年9月17日(木) 14:00～15:45

開催場所：Zoom

参加人数：16名

内容：情報への恒久的なリンク DOI と Japan Link Center のご紹介

2020年11月度(第379回) ライフサイエンス分科会

開催日時：2020年11月19日(木) 14:00～15:45

開催場所：Zoom

参加人数：11名

内容：Pharma Intelligence Center データベースの3つのモジュールと、それぞれのモジュールから利用できる機能についてのご紹介

2020年12月度(第380回) ライフサイエンス分科会

開催日時：2020年12月17日(木) 14:00～16:00

開催場所：Zoom

参加人数：14名

内容：第1部：Dialog サービス関連の最新情報、第2部：2021年のINFOPROに向けた検討

2021年1月度（第381回）ライフサイエンス 分科会

開催日時：2021年1月21日（木）14:00～16:00

開催場所：Zoom

参加人数：14名

内容：第1部：医中誌アップデート、第2部：SLA アップデート、第3部：2021年のINFOPROに向けた検討

2021年3月度（第382回）ライフサイエンス分科会

開催日時：2021年3月18日（木）14:00～16:00

開催場所：Zoom

参加人数：11名

内容：Cochrane Library について

4.1.3. 特許分科会

主査：幹事会メンバーで交代制（10回/年 第2金曜日開催、現在休会中）

4.2. 専門部会 (SIG)

特定の分野または専門技術に関心を持つ会員が自由に参加し研さんを積む場として以下の4つのグループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画して活動した。いずれの部会でもメンバーはほぼ固定であり、安定はしているが発展性に乏しいという問題がある。

4.2.1. 技術ジャーナル部会

（会員企業：9社。コアパーソン：持ち回り。5月度は新型コロナ感染防止の為中止、計5回開催）

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

【議題】

1. 各社現状発表

- ・ 7月度：1. 校正ルールについて 2. コロナ禍における対応について
- ・ 9月度：1. “著作権”の対応について
2. “査読”の方法、在り方、問題点について
- ・ 11月度：1. 図版制作の対応について（カラー化）
2. Web版の活用方法とその効果測定について
- ・ 1月度： 投稿時の承認について

2. 初のオンライン会議を振り返って
 - ・7月度
3. 『情報の科学と技術』誌投稿について
 - ・9月度、・11月度、・1月度、・3月度
4. 講演会
 - ・3月度

「企業の広報活動に伴うリスクを回避するために必要な知識
(著作権・商標・意匠)」

特許業務法人 志賀国際特許事務所 意匠・商標部門 眞島竜一郎 弁理士

4.2.2. パテントドクメンテーション部会

(会員：4名 コア パーソン：桐山 勉氏 毎月開催)

- ① INFOPRO2020 においては、口頭発表①として、「eVTOL/Hybrid-eVTOL の IP ランドスケープ研究—C-Suite の心に突き刺さる俯瞰可視化図と特許価値評価」を行った。
- ② 協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページにて、活動状況を(毎年複数回更新して) 継続公開した。
<https://www.infosta.or.jp/research/sig-pat/>
- ③ 外国専門誌による勉強会：
 - ・World Patent Information 専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。コアパーソンがWPI 専門誌の Editorial Advisory Board に 2014 年 10 月から就任したので、WPI 専門誌の勉強会がしやすくなった。2020 年 12 月に Editorial Advisory Board を退任した。
<https://www.sciencedirect.com/journal/world-patent-information/about/editorial-board>
- ④ 外部知的財産団体への協力；INFOSTA-PD 委員会に実行委員会 1 名参加。会誌の科学と技術 70(7)に、「特集「AI 時代のインフォプロ」の編集にあたって」を企画参加。
- ⑤ メンバー間のトピックス情報交換
 - ・米国 PIUG2020、EMW2020、EPOPIC2020、CPAC2020 などの関連詳細情報をメンバー間で交換。その他、国内の色々な勉強会でメンバーが参加しているものの相互紹介など。
- ⑥ プロバイダーデモ勉強会への参加と実施
 - ・アイ・ピー・ファイン社の知財 AI 活用研究会にメンバーの一人が顧問 Adviser として参加した。
 - ・Clarivate Analytics 社の Derwent Innovation を試行させて貰い、「eVTOL/Hybrid-eVTOL の IP ランドスケープ研究」を行った。
- ⑦ 新型コロナウイルスの影響で、テレワークスになってからは、2020 年 4 月度から 2021 年 3 月度まで、全ての PDG 部会をオンライン ZOOM 会議で実施した。

4.2.3. 分類／シソーラス／Indexing 部会

(コアパーソン：山崎久道氏 6回開催)

① 会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
1	2020/7/17	年度研究方針、索引課題図書の担当決め	INFOSTA	11
2	2020/9/18	課題図書「つながる図書館」についての索引結果報告	ZOOM	11
3	2020/11/20	課題図書「近鉄沿線」についての索引結果報告	ZOOM	10
4	2021/1/29	課題図書「知の逆転」についての索引結果報告	ZOOM	9
5	2021/3/19	課題図書3点についての総合的討論	ZOOM	12

② 活動状況

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、年間で5回の開催となった。
- ・索引のない書籍(学術書でない一般図書)を各分野にわたって持ち寄り、その中から3点を選び、課題図書とした。一般図書を選んだのは、全メンバーが対等の立場で議論するためである。
- ・課題図書ごとに、3グループに分かれて、索引付けを実施した。
- ・その結果について、各図書ごとに発表と討論を行い、最後に総括討議を行った。
- ・書籍の索引の重要性を理解するとともに、実際の索引付けにおいて生じる様々な問題について理解を深めることができた。ここで行われた検討や討論は、一般的なインデクシングの議論にとっても参考になるものがあった。

4.2.4. ターミノロジー部会

(部会員：9名 コアパーソン：長田孝治氏 年6回開催)

設立の趣旨：情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立した。原則として隔月開催であるが、2020年度はコロナウィルスの影響もあって開催を見送っている。

4.3. 3i研究会

① 委員会開催状況

第7期の活動終了(2020年2月)以降は、新型コロナウイルスの影響により、休会した。

2020年7月から第8期開催に向けて関係者で4回ほど会議を行い、グループサポーターを募集し、オンラインで開催することとした。3月にサポーターとして協力してくださる方が見つかри、開催に向けて準備を行っている。

5. 調査・受託事業

5.1. ISO/TC37 及び ISO/TC46 国内委員会業務

国際標準化機構 (ISO) の「情報とドキュメンテーション」(TC46)及び「専門用語及び他の言語、情報内容の資源」(TC37)に関する国内委員会業務を、2013 年度より担当している。

(1) 国際標準化 TC37 ((株) 三菱総合研究所からの委託により実施)

本委員会(井佐原 均委員長)の下に、SC1(専門用語作成の原則と手法)、SC2(用語辞書編纂方法)、SC3(用語、情報、内容の管理システム)、SC4(言語資源マネジメント)、SC5(翻訳、通訳及び関連技術)の5つのSC国内委員会を置き、総会(2020年6月、ロンドン、Zoom会議)への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(56件)等を実施した。

本年度は、以下の5項目のテーマについて、ISO標準化を進めた。

- 【1】言語構造と意味表現との対応関係に関する標準化
- 【2】技術文書における多言語用語の標準化
- 【3】技術文書の翻訳のための制限言語の標準化
- 【4】文書コンテンツのアノテーションに関する標準化
- 【5】制限言語の基本原則に関する標準化

- ・ 国内審議委員会2回(2020年9月2日、2021年2月24日)
- ・ 投票数56(DTR: 1, NP: 9, CD: 6, DIS: 4, FDIS: 4, SR: 3, CIB: 29)の回答作成
- ・ TC37国際会議(Zoom会議)への委員派遣

(2) 国際標準化 TC46

本委員会(宮澤彰委員長)の下に、SC4(技術的相互運用性)、SC8(品質一統計及び性能評価)、SC9(識別と記述)、SC11(アーカイブズ/記録管理)の4つのSC国内委員会を置き、総会(2020年5月、ロンドン、Zoom会議)への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(68件)等を実施した。

- ・ 国内審議委員会は開催されず、各SCすべてメールでの審議を行った。
- ・ 投票数46(DTR: 1, NP: 2, CD: 5, DIS: 6, FDIS: 8, SR: 16, CIB: 30)の回答作成
- ・ TC37国際会議(Zoom会議)への委員派遣

5.2. その他の委託業務

2020年度は該当業務はなし。

6. 関連団体との連携

① 会員としての加入

- ・一般財団法人機械振興協会協賛会員（継続）
- ・国立研究開発法人科学技術振興機構賛助会員（継続）
- ・東京商工会議所賛助会員（継続）

② 他団体との共催

- ・なし

③ 他団体から後援を受けたもの

- ・なし

④ 他団体に後援、協賛したもの

- ・ Code4Lib JAPAN カンファレンス 2020 (2020-06-20, 21)
- ・ 知財情報フォーラム (IPI-Forum) (2020-09-08, 2020-11-17)

これらについては、会誌に広告を掲載する他、投稿があれば開催報告を会誌に掲載している。また当協会の宣伝用ビラの配布も適宜依頼している。

7. 事務局

事務局長事務取扱 長田 孝治 総括

担当 鈴木 吉之 各種委員会、INFOPRO シンポジウムの運営、検索技術者検定の試験実施、メルマガ発行、ホームページ維持管理

担当 木村かな子 経理

担当 廣田みどり 会誌編集管理

担当 光富 健一 ISO 関連受託事業

- ・ 会員管理、購読者管理、書籍販売事務 2019年3月1日以降は会員管理、購読者管理を(株)アドスリーに委託
書籍販売事務については販売集の減少により事務局で実施
- ・ 会誌編集事務 昭和情報プロセス(株)に委託
- ・ シンポジウム運営サポート (株)アドスリーに委託
- ・ 会場型 CBT 方式試験のシステム構築・業務運営 (株)イー・コミュニケーションズ
- ・ 会計業務 アスト税理士法人 (AST) に委託
- ・ ホームページ (システム契約、WordPress サイトマネジメント保守)
タイニービット (有)

以上